

単元構想シート

学部・学年	小学部・6年
教科・単元名・時数	【社会科】「戦争と人々の暮らし」全9時間

1 児童生徒の実態

- 戦争被害や原爆による被害については、一学期の平和学習や総合的な学習の時間における原爆資料館見学を通して学習した。学習した内容は断片的な知識に留まっており、関連付けて理解するまでには至っていない。
- 教科書の文中に書かれていることを答える質問に対しては教師からのヒント等が必要であるが、教科書の挿絵や年表等を見て解答する質問には自分から答えることができる。
- 事象を深く理解するために、教科書や資料の文章・図表等を関連付ける等して、思考したり判断したりすることが苦手である。
- 複数のクラスメイトと学習する機会が少ないこともあり、友達の意見と比べたり、参考にしたりする経験が少ない。
- 難しい発問や内容になると集中が途切れてしまい、学習意欲の継続が難しい場合がある。

2 単元目標

- 日中戦争や太平洋戦争において、国民が大きな被害を受けたことや他国に大きな被害を与えたことが分かる。（知識・技能）
- 地図や年表等の資料から、戦争の広がりや経緯を適切に読み取ることができる。（知識・技能）
- 戦争の広がりや人々の暮らしの変化について関連付けて考え、白地図や年表等にまとめ表現できる。（思考力、判断力、表現力等）
- 戦争とその時代を生きた人々の暮らしに関心をもち、進んで考えたり調べたりする。（学びに向かう力、人間性等）

3 単元における見方・考え方

戦争の経過や戦場の広がり、戦争中の人々の暮らしの変化に着目し、当時の日本や世界の情勢を関連付けたり現在の自分の暮らしと比較したりして考える。

4 単元構成の工夫

- 単元の導入段階では、平和学習や原爆資料館見学の資料やしおりを活用し、当時の日本の様子や人々の生活への関心を高める。
- 満州事変から終戦までの年表を作成し、各題材の時系列を捉えやすくする。
- 「アジア・太平洋に広がる戦争」では、「中国との戦争が始まる」における戦場の広がりや長期化と関連付ける。
- 「子どもたちと戦争」では、「戦争と人々の暮らし」で学んだことから、子ども達の暮らしの様子を予想させる。

5 単元計画

題材名	時数	学習する主な内容	主体的・対話的で深い学びを実現するための指導上の工夫	評価の観点		
				知・技	思・判・表	主
戦火に焼けた日本	1	・戦争とその時代の人々の暮らしに関心をもち。 ・日本が戦った戦争や人々の暮らしの様子について学習問題を考え表現する。	・教科書の資料、原爆資料館見学のしおりをもとに学習問題について話し合う場面を設定する。			○
中国との戦争が始まる	1	・日中戦争がどのように始まり、展開したのかを調べる。 ・中国大陆で戦域が拡大した経緯を理解する。	・写真資料から読み取ったことを電子黒板に記入し共有しながら調べる。	○		
アジア・太平洋に広がる戦争	1	・年表や地図を読み取る。 ・戦争がアジア・太平洋に広がった理由を考える。	・戦場の広がりや表す地図をもとに、航空機生産力のグラフや東南アジアの資源等を関連させる場面を設定する。	○		
戦争と人々の暮らし	1	・戦争中の人々の暮らしを調べる。 ・戦争が人々の暮らしに与えた影響について考える。	・当時の新聞記事の見出しの変化や教科書資料から感じたこと、考えたことを話し合う。		○	
子どもたちと戦争	2	・戦争中の子どもたちの暮らしを知る。 ・自分たちの日常生活と比較する。 ・当時の子どもの思いや願いを考える。	・教科書資料、戦争体験者の手記をもとに、今の生活と比べ、当時の子どもの気持ちを考えまとめる。		○	○
おそいかかる空襲	1	・空襲によって国民が受けた被害の大きさについて理解する。	・原爆投下以外の長崎の空襲についてwebページ等をもとに調べる。	○		
沖縄・広島・長崎、そして敗戦	2	・沖縄戦や原爆がもたらした被害の大きさについて理解する。 ・戦争に対する自分の考えを深める。	・原爆資料館見学のしおりをもとに、単元始めに設定した学習問題について話し合う。 ・本単元で作成した年表や資料をまとめ、新聞にする。		○	○

○教科等横断的な視点で関連する内容と習得状況

○既習内容の学習状況（思考・判断・表現）
○障害等による学習の困難

○資質・能力の三つの柱
○各資質・能力の関連
・本単元で習得した知識・技能を活用し、どのように思考・判断・表現できるようになることをめざすか
・その過程で、工夫して取り組んだり、自分の考えを述べたりする等、どのような学習に取り組む態度を引き出すか

○見方・考え方の想定
・学習指導要領解説等を参考に、本単元において、子どもたちが「何に着目するか」「どのように考えるか」を具体化

○「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を引き出す場面の設定

○単元を通じた手立て

○「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を引き出す場面の設定

○各題材における評価の観点
・「知・技」は「知識・技能」
「思・判・表」は「思考・判断・表現等」
「主」は「主体的に学習に取り組む態度」を示す

○「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を引き出すための指導上の工夫

単元構想シート

学部・学年	小学部・6年
教科・単元名・時数	【社会科】「戦争と人々の暮らし」全9時間

1 児童生徒の実態

○戦争被害や原爆による被害については、一学期の平和学習や総合的な学習の時間における原爆資料館見学を通して学習した。学習した内容は断片的な知識に留まっており、関連付けて理解するまでには至っていない。
○教科書の文中に書かれていることを答える質問に対しては教師からのヒント等が必要であるが、教科書の挿絵や年表等を見て解答する質問には自分から答えることができる。
○事象を深く理解するために、教科書や資料の文章・図表等を関連付ける等して、思考したり判断したりすることが苦手である。
○複数のクラスメイトと学習する機会が少ないこともあり、友達の見解と比べたり、参考にしたりする経験が少ない。
○難しい発問や内容になると集中が途切れてしまい、学習意欲の継続が難しい場合がある。

2 単元の目標

○日中戦争や太平洋戦争において、国民が大きな被害を受けたことや他国に大きな被害を与えたことが分かる。（知識・技能）
○地図や年表等の資料から、戦争の広がりや経緯を適切に読み取ることができる。（知識・技能）
○戦争の広がりや人々の暮らしの変化について関連付けて考え、白地図や年表等にまとめ表現できる。（思考力、判断力、表現力等）
○戦争とその時代を生きた人々の暮らしに関心を持ち、進んで考えたり調べたりする。（学びに向かう力、人間性等）

3 単元における見方・考え方

戦争の経過や戦場の広がり、戦争中の人々の暮らしの変化に着目し、当時の日本や世界の情勢を関連付けたり現在の自分の暮らしと比較したりして考える。

4 単元構成の工夫

○単元の導入段階では、平和学習や原爆資料館見学の資料やしおりを活用し、当時の日本の様子や人々の生活への関心を高める。
○満州事変から終戦までの年表を作成し、各題材の時系列を捉えやすくする。
○「アジア・太平洋に広がる戦争」では、「中国との戦争が始まる」における戦場の広がりや長期化と関連付ける。
○「子どもたちと戦争」では、「戦争と人々の暮らし」で学んだことから、子ども達の暮らしの様子を予想させる。

5 単元計画

題材名	時数	学習する主な内容	主体的・対話的で深い学びを実現するための指導上の工夫	評価の観点		
				知・技	思・判・表	主
戦火に焼けた日本	1	・戦争とその時代の人々の暮らしに関心をもつ。 ・日本が戦った戦争や人々の暮らしの様子について学習問題を考え表現する。	・教科書の資料、原爆資料館見学のしおりをもとに学習問題について話し合う場面を設定する。			○
中国との戦争が始まる	1	・日中戦争がどのように始まり、展開したのかを調べる。 ・中国大陸で戦域が拡大した経緯を理解する。	・写真資料から読み取ったことを電子黒板に記入し共有しながら調べる。	○		
アジア・太平洋に広がる戦争	1	・年表や地図を読み取る。 ・戦争がアジア・太平洋に広がった理由を考える。	・戦場の広がりを表す地図をもとに、航空機生産力のグラフや東南アジアの資源等を関連させる場面を設定する。	○		
戦争と人々の暮らし	1	・戦争中の人々の暮らしを調べる。 ・戦争が人々の暮らしに与えた影響について考える。	・当時の新聞記事の見出しの変化や教科書資料から感じたこと、考えたことを話し合う。		○	
子どもたちと戦争	2	・戦争中の子どもたちの暮らしを知る。 ・自分たちの日常生活と比較する。 ・当時の子どもの思いや願いを考える。	・教科書資料、戦争体験者の手記をもとに、今の生活と比べ、当時の子どもの気持ちを考えまとめる。		○	○
おそいかかる空襲	1	・空襲によって国民が受けた被害の大きさについて理解する。	・原爆投下以外の長崎の空襲についてwebページ等をもとに調べる。	○		
沖縄・広島・長崎、そして敗戦	2	・沖縄戦や原爆がもたらした被害の大きさについて理解する。 ・戦争に対する自分の考えを深める。	・原爆資料館見学のしおりをもとに、単元始めに設定した学習問題について話し合う。 ・本単元で作成した年表や資料をまとめ、新聞にする。		○	○